



## 海外で取り組んだ農業指導 帰国後、師と仰ぐ人の元へ

村井健二さん (38歳) 宮尾

### 砂漠の緑化

村井さんが農業に携わるきっかけは、学生時代に遡ります。「高校時代、テレビで砂漠の緑化に挑む大学教授の姿を目にし、その大学に進学したいと思いました。希望どおり進学し、入学後は、乾燥地域の農業に貢献したいと思い、土木系コンサルタント会社の就職を目指していました」と振り返ります。大学を休学し、世界の乾燥地域を肌で感じるため、オーストラリアやアフリカのタンザニアに行ったそうです。

### 海外での体験

「オーストラリアにいた頃、タンザニアで稲作をする日本人がいると聞き、アフリカに行きました。稲作指導員を大学卒業後も2年間続け、気候変動や放牧民との対立、ゾウの襲来などを経験する中、所属するNGO団体が資金難になり、やむを得ず帰国しました」と言います。

### 独立を目指す

「帰国後、日本の大型農業を経験するため、地元愛知県で80



ヘクタールの農地を管理する農業法人に就職しました。トラクターなどの機械操作や大規模な稲作経営の技術を学ぶことができました。「勤務中の3年間は、独立して就農する希望を持ち続け、各県が開催する就農相談会に出席していたそうです。」

### 師と仰ぐ人

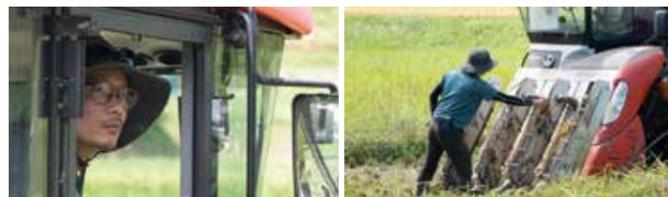
その時、全国農業会議所の紹介で出会った農家、小山等さんと意気投合。「大型機械を使った収益の高い稲作農業ができないか」と思い描いていた時、大型機械を貸出する小山さんと話が一致し、この人の元で学びたい

と思いました」と津山への移住を決意。小山さんの元で2年間、技術を学びます。「津山に来て8年経った今でも、小山さんの所に毎日通っています。自然相手の仕事なので、収穫時期の雨の日は、収穫を焦る気持ちが出ますが、焦らず落ち着いて過ごす小山さんを見て、安心することがあります。経験ある人が身近にいるのは、心強い」と言います。

### 心が和む瞬間

「地域の人と連携しながら、経営を次の世代に引き継ぐため、法人化を考えています」と将来

を見据えます。「先輩農家と比べると、今でも収穫量に差があり、1年に1度しか収穫できないので、この技術の差を縮めるのに時間がかかります。試行錯誤を続ける中、田植えの時期に、苗が一面に広がる田んぼを見た時は、いい風景だなと心が和みます。緑、水、自然の風景が好きなのもかもしれません」と笑顔で語りました。



美作県民局  
美作広域農業普及指導センター  
副参事 難波昌一さん

## 地域の人とのつながりが大切

農業普及指導センターで、農業者の栽培技術の向上や経営の改善、新たに農業を始める人を支援しています。人口減少社会の中、後継者の不在が深刻ですが「農業がやりたい」と魅力を感じ、志す人が毎年県内外から相談に訪れています。

ただ、夢や憧れだけでは農業を続けることはできません。栽培品目の選択、収支計画の作成、栽培技術の習得、資金の確保などの準備が必要です。

農業は人とのつながりが大切です。志が同じ仲間を作り、互いに切磋琢磨することで、成長することができます。また、相談に乗り、温かく見守る先輩農家や地域の人々が、農業を志す人には必要な存在です。

人とのつながりの中で、津山地域にも新たな農業者が着実に育っています。夢に向かって頑張る人に、地域の人と一緒に、農業が将来の希望を持てる「魅力のある仕事」であることを伝えていきたいです。

## 新規就農者をサポートします!

市は、新たに農業を始める人を応援しています。お気軽にご相談ください。

※詳しくは「農業を始める.jp」ホームページをご覧ください



問 農業振興課 ☎32-2079

## 将来を見据えた農業が大切 自分の持つ知識と経験を伝えたい

まだ大型農業機械が普及していない時代に、大型トラクターや乾燥機を購入しました。農地を預かる中、効率重視の経営を確立してきました。村井君とは8年前に出会いました。愛知県から移住して農業をしたい若者がいると聞き、自分の農地を任せるつもりで、家族と一緒に面接しました。外国での農業指導や、国内の農業法人での勤務経験もあり、作業に手慣れていました。農業収入だけでは規模拡大が難しいので、半日はわたしの所で働いています。

村井君には国の補助金に頼らない自立した経営と販売戦略を持ってほしい。米価下落の影響はありますが、先を見据えた農業を、自分の持つ知見を含めて伝えていくつもりです。



こやま農産  
小山等さん (領家)

